

## 熊本県総合計画

### 「二十一世紀へのシナリオ(仮称)」の 基本構想がまとまりました。

#### 〈計画策定の考え方〉

この総合計画は、これまでの「熊本・明日へのシナリオ」を継承しつつ、二十一世紀の熊本のあるべき姿を展望し、さらに時代を先取りした施策の展開を図っていくためのものです。そして、県をはじめとした行政機関や県民間企業、団体などが一体となって取り組むべき「県民共通の指針」となるものです。

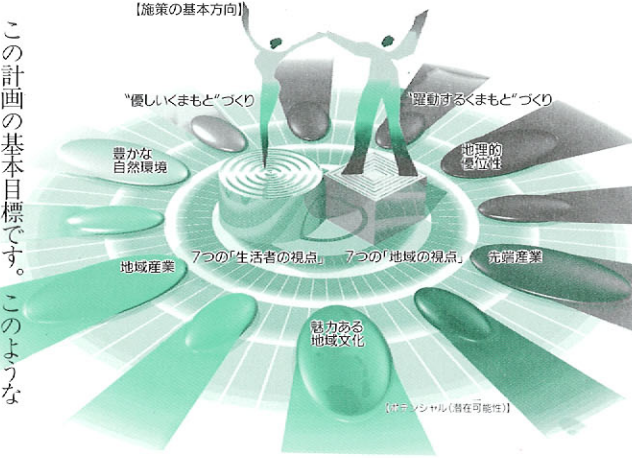


#### 〈基本理念〉 多様な価値観を実現できる 社会を創りましょう。

二十一世紀は、高齢社会を迎え、個人の価値観やライフスタイルもますます多様化していく時代になるでしょう。このような中で、県民一人一人が本当に豊かになるには、それぞれの多様な価値観を実現できる社会を創っていく必要があります。

#### 〈基本目標〉 ゆたかさ多彩「生活創造」 くまもと

みんなが志を高く持って、それぞれの力を十分に活かしながら、いつも楽しく自由でいられる。そんな豊かで明るい生活を創っていくというのが、



#### 〈施策の基本方向〉

この計画の基本目標です。このような多彩な生活の創造を通して、「一人一人が輝く」くまもとを目指します。

#### 〈施策の基本方向と それぞれの七つの視点〉

「優しくくまもと」を創る社会システムづくりと、「躍動するくまもと」を築く豊かな基盤づくりを進めていくた

## 〈基本構想体系図〉

〔県の施策の基本方向〕

### 〔7つの「生活者の視点」〕

- ①子どもたちが健やかにたくましくはぐくまれるために
- ②若者が個性と創造力を伸び伸びと活かせるために
- ③働く人々が活力とゆとりをもって暮らせるために
- ④女性が個性と能力を十分に発揮できるために
- ⑤障害者が自立し社会へ進出できるために
- ⑥高齢者が健康で生きがいをもって暮らせるために
- ⑦県民だれもが安全で心豊かに暮らせるために

### 〔7つの「地域の視点」〕

- Ⅰ 均衡のとれた発展を目指す 豊かで文化にあふれた県土づくり
- Ⅱ 次の世代へ引き継ぐ自然を大切にしたい快適環境づくり
- Ⅲ 生活の基盤となる力強い産業づくり
- Ⅳ 活力に満ち展望をもてる農山漁村づくり
- Ⅴ 魅力にあふれ賑わいのある都市づくり
- Ⅵ 都市と農山漁村が一体となった広域的生活圏づくり
- Ⅶ 世界と交流する開かれた熊本づくり

#### 〔基本目標〕



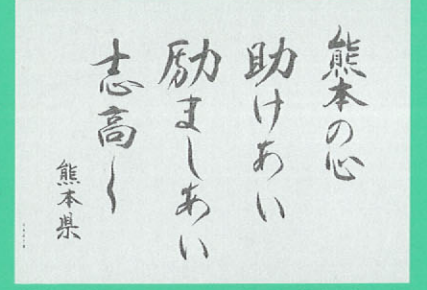
本誌「くまもとの風」では今号から十二月号まで四回にわたって、この基本構想を特集に取り上げ、県民の皆様とともに「ゆたかさ多彩「生活創造」くまもと」を具体的に考えていきます。熊本で一人一人が輝いて暮らすとはどんなことでしょうか？「住まう」「働く」「学ぶ」「楽しむ」の四つのテーマを七つの「生活者の視点」と七つの「地域の視点」で捉え、本当の豊かさとは何かを考えていきます。

やさしさと活力ある  
郷土づくりを目指して、  
「熊本の心」を啓発していこう

福島知事の提案により、熊本スピリッツ運動に「熊本の心（助けあい、励ましあい、志高く）」という新たな標語が提唱されました。これは、県民の一人一人が持ちたい心の目標となるものです。

「熊本スピリッツ運動」は、昭和31年に発足した「新生活運動」を発展させたもので、昭和62年に名称を変え、同時にラフカディオ・ハーン（小泉八雲）が熊本人の美德としてたたえた「簡易・善良・素朴」という啓発の言葉を掲げ県民運動を行ってきました。今回、これらの精神を引き継ぎながらも、より具体的に時代に即した言葉をということで、「助けあい、励ましあい、志高く」の標語が、掲げられました。

長寿社会を迎えようとしている今、県民がお互いに力を合わせることが望まれています。「熊本の心」は、県民がすべての人の人格を尊重しながら、心豊かで潤いのある生活を営み、やさしさと活力に満ちた熊本を築くための重要な精神あるいは行動指針となるでしょう。



安路路子氏(前県教育委員長)の直筆による「熊本の心」

## 水俣再生への胎動 「環境・創造・みなまた92」

11月7日～14日開催  
シリーズ①

### 敬遠される地域像

不知火海を臨む美しいリアス式海岸や山と海の温泉をもつ風光明媚なまち、みなまた。水俣は、「水俣病のまち」として、国内外にその名前が知られています。そのため、全国的には「敬遠される地域像」が定着し、地域経済的に疲弊してきています。水俣病は、患者の方をはじめ市民全体、地域社会に様々な苦悩をもたらしています。

### 水俣病の教訓

水俣病の公式発表から、すでに三十六年が経過していますが、水俣病問題は、まだ解決をみていません。環境破壊は、人の生命や健康を損なうだけでなく、地域の生態系や地域社会に対しても、その回復が非常に困難な影響をもたらし、地域の存立さえも危うくすることを教えています。

水俣は、この教訓を生かすとともに、内外に広く伝えていきたいと考えます。

### 市民自らの手で

いま、水俣病を経験した水俣だからこそ、環境や生態系に配慮したまちを市民自らの手でつくっていくことの動きが芽生えています。全二十六区で構成する地域づくり組織「寄



率直な意見が出た「子どもたちにつなぐ水俣を語る市民の集い」

### 地域の再生を目指して

昨年七月から、行政と患者団体及び市民各界との意見交換会が四十回を数え、そして、水俣病の発生以来三十六年経つてはじめて患者団体と一般市民の対話が公の場で行われました。また、水俣病犠牲者慰霊式も二十四年ぶりに公的に執り行われるなど、地域再生への行動が現実のものになりつつあります。

次回は、水俣の新しい魅力として水俣湾埋立地に整備が進む竹林園親水緑地等についてお知らせします。

## くまもとアートポリス'92

11月5日～30日開催  
シリーズ①

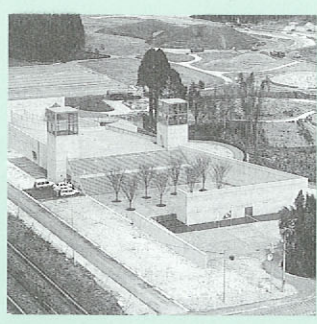
### 後世に残る文化的資産としての建造物を建設しようという「くまもとアートポリス」構想

今年はこの構想の成果を広く紹介するために、くまもと国際建築展「くまもとアートポリス'92」(十一月五日～三十日)が

開かれます。このシリーズでは、それに先立ち、アートポリス'92に向けての動きを追います。今回は最近完成した参加作品を紹介いたします。

### ■県立芸術古墳 設計 安藤忠雄

4月15日オープン  
菊池郡鹿央町の岩原古墳群の一角に、全国ではじめての「芸術古墳」として誕生。双子塚古墳(前方後円墳)をモチーフにした設計は、さながら現代の古墳と言えます。



### ■新地団地B 設計 緒方理一郎

5月1日入居開始  
「集まって住む楽しさを体験できる」住環境を目指したとは、設計者の弁。一見ドイツの集合住宅を思わせる外観は、そのまま新しい生活への楽しさを期待させます。



### ■清和文楽館 設計 石井和雄

4月27日オープン  
「文楽の里づくり」の拠点として、上益城郡清和村に完成。在来構法による大型木造建築は、「平成の豪邸」との賛辞を受けています。



### ■TOTO AQUA PITTSBURGH 設計 木島安史

3月19日オープン  
「水のある、やさしさのある休憩所」として、阿蘇山上駐車場に登場。高齢者や乳幼児連れの人にも使いやすい工夫がされています。

